

産褥期の助産診断・技術学



2026年7月2日

高橋

本日の授業内容



前回の復習

- ①産褥期のマタニティ診断
- ②退行性変化に影響を及ぼす因子

産褥1日目の予測
～産褥に影響を与える因子を考えよう～

本日はこちら



子宮復古に影響を与える因子を確認しよう



*子宮復古に影響を与える背景要因 → テキスト6 p10 表2-3

退行性変化に影響を与える因子を考え、産褥日数に応じた正常な経過をたどれるよう、ケア介入を導きだす。

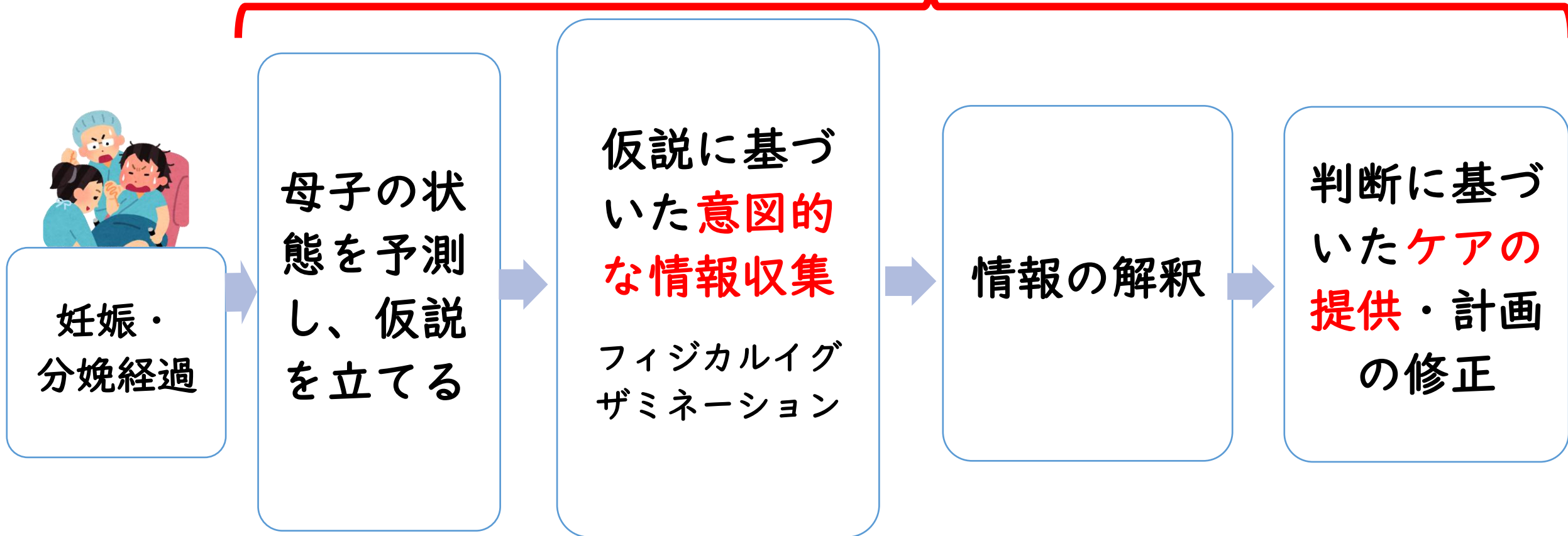
↓
助産ケアの提供について事例で考えてみると...

・排尿を促す→

・疼痛緩和→

→分娩後の初回の排尿(初回歩行)注意点はなんだろう?(講座7 p277)
→産後の早期離床の目的はなんだろう?(講座7 p278)
→血液系の変化は?(今日の助産p719、テキスト6 p14)

学習のプロセス



フィジカルアセスメントの思考プロセス

産褥経過に影響を与える妊娠・分娩経過



- ① 退行性変化に影響する因子
- ② 進行性変化に影響する因子
- ③ 産後の行動拡大に影響する因子
- ④ 産後の心理状態に影響する因子
- ⑤ 母親役割獲得能力に影響する因子



事例（城さん）の分娩経過を確認しよう
（妊娠中の経過～分娩終了時記録から何を読み取るか）

事例から考えてみよう 〈患者情報〉



城さりなさん

34歳、初産婦、会社員（1年育休取得予定）、夫と2人暮らし

身長：155cm

体重：入院時60kg（非妊時47kg）

既往歴：なし

アレルギー：なし

合併症：なし

20週～酸化マグネシウムで排便コントロール

30週Hb10.5mg/dl 36週Hb10.0mg/dl

35週GBS陽性

バースプラン：夫に立ち会ってほしい、生まれてすぐ母乳をあげたい

母乳育児希望：あり

事例から考えてみよう 〈入院後～分娩の経過〉



妊娠40週1日、自然陣痛発来。

- ・ 続発性微弱陣痛がみられ、陣痛促進にて分娩となる。
分娩経過中は、疲労様表情みられ、「こんなに長くなるとは思いませんでした…辛くなってきました。」と流涙する様子がみられた。
夫の付き添いがあり、分娩所要時間20時間で女児を経膣分娩した。
- ・ 児娩出時、左正中側切開施行。医師による会陰縫合実施。
- ・ 分娩時出血量663g、胎盤重量500g、卵膜欠損・胎盤欠損なし。
- ・ 母乳希望あり。Ⅱb・短乳頭。分娩室で早期母子接触、初回授乳を実施し、介助にて吸啜良好。
児に対し、笑顔で「かわいい。」と声をかける様子がみられた。

事例から考えてみよう 〈分娩後の経過〉



- ・ 1時間値の出血量80g/h、膀胱充満を認めたため導尿実施。
2時間値まで分娩室で経過観察後、産後の経過が順調であることを確認し、車椅子で帰室した。
帰室時、気分不快・めまい・ふらつきなし。児は新生児室で預かりとした。

6:30検温のため訪室。

「少し眠れました。トイレ行きたい感じはないです。傷が痛いですね」と話す。表情良。

膀胱充満あり、付き添いにてトイレ歩行し、自尿あり。創部痛あり、アセトアミノフェン錠（カロナール）500mg 1錠内服する。

一般名（有効成分の名前）

商品名

城さんの退行性変化への影響因子を考えよう



- ・分娩所要時間が長かったことから、子宮筋の疲労のリスクがある。
- ・子宮収縮を阻害する卵膜や胎盤の遺残や子宮筋腫の合併はない。
- ・児は3,035gであり、羊水量も正常（羊水過多はない）であったことから、子宮筋の過伸展はない。
- ・適時破水であり、母体発熱や羊水混濁など子宮内感染を疑う所見はない。
- ・会陰切開による創部痛がある（離床、休息、排泄行動等が妨げられる可能性）。

城さんの進行性変化への影響因子を考えよう



- 母乳育児の希望がある。
- 分娩終了後、母児ともに経過良好。分娩台にて初回授乳を行っており、介助にて吸啜は良好だった。
- 妊娠中から貧血があり、分娩による出血の影響で貧血がさらに悪化している可能性がある。
- 乳頭乳房の形状は、Ⅱb、短乳頭である。（→授乳条件としてどうか）
- 児は、アプガースコア 8 点/9 点でその後のバイタルサインも安定している。
- 児は、正期産児でAFD（相当体重児）である。
- 産褥早期から母児同室を開始できる可能性が高い。

城さんの行動拡大への影響因子を考えよう



- 分娩所要時間が長く、深夜帯での分娩であったことから疲労がある可能性。
- 会陰切開に伴う創痛の可能性がある。
- 貧血の悪化により、めまい、ふらつき、疲労感が出現する可能性がある。

城さんの心理面への影響因子を考えよう



- 望んでいた妊娠であり、妊娠を受容し、夫からもサポートを受けながら妊娠生活を送っていた。
- 里帰り出産であり、退院後は実母が家事や育児を手伝ってくれる予定
- 精神疾患の既往や合併症はない。
- 分娩所要時間が長く、分娩経過中に流涙する様子が見られたことから思い描いていた出産との乖離があった可能性がある。
- 会陰創部に伴う縫合部痛（創痛）により十分な睡眠が得られていない可能性がある。
- 初産婦であり、初めての育児に対する不安がある。

城さんの母親役割獲得への影響因子を考えよう



- 初産婦であり、今までに育児の経験は無い。
- 夫婦関係は良好である。
- 退院後は実家に1か月里帰り。実母からのサポートを受ける予定。
- 児は正期産児で、アプガースコア 8点/9点であり、出生後のバイタルサインも安定している。